



# ふじ美が原

富士見中学校

特集：始業式

## 一学期始業式

### 「一分八間」目標をしっかりと定めよう

一学期の出発である始業式では、二年生、三年生の決意発表、校長先生のお話がありました。「目標」ということについて、じっくり考える始業式となりました。

始業式 校長講話  
大きな目標と  
日々積み上げていく目標  
学校長 曾根原 好彦

〈校長講話に先立って行われた生徒の決意発表に触れたのち〉

皆さんも、新年度に当たり、自分なりの目標を立てているでしょうか。

今日は、「一分八間」という話をします。「二分」も「八間」も、長さを表す日本の単位です。一分は、一寸の十分の一の長さです。一寸という言葉は聞いたことがあるでしょうか。「一寸法師」とか、「一寸先は闇」などと使われますが、皆さんが知っている長さの単位で表すと約三センチメートルです。一分は、その十分の一ですから、約三ミリメートルとなります。

次に、「八間」です。「一間」の長さはどのくらいかわかりますか。「一、八メートルです。」(曾根原知宏先生が指名され、見事正解)「一間

とは、畳の長い方の長さで、約一、八メートルです。それが八個分ですから、どのくらいの長さになりますか?一、八メートル×八を計算してみてください。約、一四、四メートルとなります。

さて、三ミリメートルである一分と、一四、四メートルの八間では、随分と長さが違いますね。実は、この長さには、関係があります。

三年生がもうすぐ修学旅行で訪れる京都に、三十三間堂というお寺があります。仏像が千体も並ぶ荘厳なお寺です。この建物の縦の長さは一〇六、八メートルあり、軒下を弓矢で射通す「通し矢」という競技が、千年程前から行われていたと言われていています。今では、距離が短くなつて、六十メートル程の長さで行われています。

一〇六、八メートル先の的を目指して弓を引き、矢を飛ばすのですが、そのとき、手元が一分ずれただけで、的から八間も矢が外れてしまうのだそうです。それほど、スタートが大事、という例えです。

さて皆さん、本日から、平成二九年度がスタートします。皆さん、自分の、今年度の学校生活を充実させようと、それぞれに様々な目標を立てていることと思います。「まだあまり考えていない」という人は、今年度の学校生活を思い浮かべ、学習のこと、友だちのこと、部活動の

こと、習い事のこと、進学のことなど、自分の目標を是非立てましょう。その際、一分ずれただけで、ゴールが八間もずれてしまいます。目標を立ててスタートする「今」が一番大事です。

目標には、「めざす大きな目標」と、その大きな目標を達成するための「日々積み上げていく目標」があります。例えば、「部活動で勝つ」という大きな目標と、「そのために、日々どんな練習を積み上げていくか」という具体的な目標があります。あとは、その日々の目標を、大きな目標につなげるように、実践していく「心の強さ」によって、実現が図られます。

どんな一年になるでしょうか。「一分八間」。今がそのときです。きちんと的に当たるような目標を立ててください。皆さんの目標が実現するように、先生方は、皆さんを支えていきます。私も、校長として、しっかりと目標を立てていきます。

一学期の決意 「先輩」になる  
二年生代表 A さん

今日から始まる中学二年生の生活の中で、私は次の四つのことを意識し、充実した一年にしていきたいです。一つ目は『先輩』と呼ばせるので

はなく、『先輩』と呼ばれる人」になることです。今日新たに一年生が入学してきて、私たち二年生は先輩になります。今日からは学年が上がって『先輩』と呼ばれることもあると思います。けれど、私は学年が上がったからではなく、内面から『先輩』と呼ばれても恥ずかしくないような先輩になりたいです。そのためには、まず自分のやるべきことを確実にやり、その上で周りのことも見れるようにすることが大切だと思います。小さなことをコツコツと積み重ね、先輩として尊敬される人になりたいです。

二つ目は、友達の良い所を見つけ、誰にでも平等に接することです。これは当たり前なことですが、とても大切だと思います。私には「苦手だな」と思う人とも話してみると楽しかったという経験があります。なので、第一印象だけで決めつけず、色々な人とたくさん関わっていきたいと思います。どんな人と話すときも笑顔忘れず、また、「親しき仲にも礼儀あり」ということを心に留めて生活していきたいです。

三つ目は先輩の行動からたくさん吸収し、自分の生活に活かしていくことです。来年度は私たちが学校を引っ張っていく立場になります。一年生の時はただついて行くだけだった一つの行事ですが、今年度は三年生と

ともに自分たちもつくり上げるといふ意識を持って臨み、三年生の先輩の姿をどんどん取り入れていきたいです。

最後の四つ目は感謝の気持ちを忘れず、一年間、思いっきり楽しむことです。この学校、この学年、このクラスで過ごせることに感謝しつつ、一日一日を楽しんでいきたいです。

私はこの一年を、終わったときに心から「楽しかった」と思える年にしたいです。そのためにも、四つのことを大切に、最高の一年にします。

一学期の決意 **がんばる一学期に**  
三年生代表 F さん

僕は一、二年生としっかりやってこなかったことがあります。それは、提出物です。僕はこの二年間、どの教科でも、提出物の評価でAを取ったことがありません。この事実を、今の今までほとんど気にしていませんでした。しかし、三年生が近づいて、副ルーム長になって、僕はやつと自分がバカだったことに気づきました。思い上がっていた自分が今でも恥ずかしいです。そこで、三年生では、目標を三つ立てました。

一つはもちろん提出物です。先生が、目標は具体的なほうが良いと言っていたので、具体的に設定しました。そ

れは、提出率95パーセント以上を目指すことです。今までAを取ったことがない僕が95パーセントを目指すのは難しいことは分かっています。しかし、この場で宣言している以上、しっかり取り組みます。

二つ目は部活動です。顧問の先生が異動されたので、新しい顧問の先生になり、野球部も新体制になります。山崎先生が異動してしまったのは正直ショックでした。しかし、くよくよしていないで目標は達成できないので、最後のシーズンを、悔いのないように一生懸命頑張っていけます。山崎先生に、目標の場所まで行けば見に来てくださるといついていただけだったので、そのたにも頑張ります。

三つめは受験です。まだ一年後と思っている人もいると思いますが、一年間なんてあつという間です。これまでの二年間のように、次々といろいろなことが起こっていくと思います。だから、一日一日を濃いものにしていきます。そのため提出物であり、部活動です。僕は、上を目指します。今まで何もしてこなかった僕を、今日こころを変えます。もし僕が折れそうになつたら支えてください。そのかわりに僕がみなさんを支えます。

最後に、ある日、母からこんなことを言われました。  
「あんたの人生80年の内、一年くら

い頑張ってみてもいいんじゃない？」確かにそうだと思います。僕が読んだ本の中に、こんなことが書いてありました。

「やらないのは、できないのと同じだ。」

「どんなに内側で『こうしたい』とか『本当はこうなのに』と思っても、外から見られている私が私なのだ。」

自分はい上がついていました。テストの点を見るたびに、できないから仕方がないと思っていました。やっていないんだから当然です。当たり前のことです。僕には大発見でした。だからこそ、ここで変わります。一年間やってみるので、一年後どうなっているか、僕はそこで頑張ります。周りの人たちにまた迷惑をかけるかもしれないですが、それでも応援してもらえようにがんばるのでよろしくお願ひします。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇  
一学期の終わりを迎え、学期のはじめに立てた目標と、現実の自分がどう近づいているのか、しっかり見つめることが大切です。

富士見町立富士見中学校  
諏訪郡富士見町富士見四六五番地  
TEL 0266-62-2009  
FAX 0266-62-7409  
担当 演 喜一郎